

## 【リデュース】

### (1) 軽量化実績

- ・2007年に軽量化された主な品目は、9品種35品目（表1）であり、軽量化重量は2,494トン、総重量に占める割合は0.2%であった（表2）。
- ・軽量化効果が最も大きかった品目は、「小びんドリンク」で、軽量化トン数は998トン。
- ・その他にも「ワイン」「コーヒー」「ウイスキー」において軽量化の効果が大きい。
- ・軽量化の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について対象としており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表1】 2007年に軽量化された品目

品種	品目
小びんドリンク	小びんドリンク（2品目）
食料びん	コーヒー（6品目）、ジャム（3品目）
調味料びん	たれ（1品目）、酢（3品目）、ソース（1品目）、新みりん（1品目） つゆ（1品目）、調味料（3品目）
牛乳びん	牛乳（1品目）
清酒 中小びん	清酒（1品目）
ウイスキーびん	ウイスキー（2品目）
焼酎びん	焼酎（4品目）
その他洋雑酒	ワイン（5品目）
飲料ドリンク	飲料ドリンク（1品目）

【表2】 軽量化重量実績（2007年：単位 t）

軽量化重量合計	生産重量	軽量化率
2,494	1,313,830	0.2%

### (2) 1本当たりの単位重量変化

- ・2007年のガラスびん1本当たりの平均重量は186.4gとなり、前年の187.7gに比べて1.3g（0.7%）の減少となった。
- ・減少要因は、まさに前述の軽量化が寄与している。
- ・また、目標設定の基準年である2004年（192.3g）に比べるとガラスびんの1本当たりの単純平均重量は5.9g減少している。（表3）
- ・なお軽量化率の算出に当たっては、単純1本当たりの重量を比較する方法では、小容量の絶対重量が軽い品目の出荷数量が多くなっただけで、平均重量は小さくなってしまいうため、基準年度に対する各品目の軽量化率を算出し、さらに全体の総重量に占める構成比を考慮する加重平均方式を採用した。（表4）

【表3】 1本あたりの単位重量推移

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
本数（千本）	7,262,950	7,218,336	7,158,306	7,049,797
重量（トン）	1,396,582	1,351,523	1,343,925	1,313,830
単位重量（g/本）	192.3	187.2	187.7	186.4

【表4】 品種別軽量化率推移

	平成16年 （基準年）	平成17年	平成18年	平成19年	軽量化状況（%） （H19÷H16） ×100-100
薬びん・ドリンク	0.184090	0.185320	0.177003	0.174485	-5.2
化粧品びん	0.003690	0.004260	0.004164	0.004829	+30.9
食料品びん	0.111980	0.120340	0.109268	0.111559	-0.4
調味料びん	0.141306	0.143684	0.144275	0.143805	+1.8
清涼飲料びん	0.221267	0.227441	0.214501	0.216735	-2.0
牛乳びん	0.022343	0.020584	0.016484	0.017852	-20.1
酒類びん	0.315324	0.302953	0.324477	0.317947	+0.8
合計	1.000000	1.004582	0.990172	0.987212	-1.3

**(3) 既に軽量化された主な品目**

- ・平成12年から平成18年までに、既に軽量化された主な品目は、表5のとおりとなっている。

**表5 既に軽量化された品目（2000年～2006年）**

品 種	品 目
薬びん	小びんどリンク（2品目）、細口びん（1品目）
調味料壺 食料びん	酢（5品目）、ドレッシング（3品目）、調味料（4品目）ほか コーヒー（9品目）、粉末クリーム（1品目）
牛乳壺	牛乳（4品目）
ウイスキー壺 ビールびん	ウイスキー（2品目） ビール（1品目）